



やぐもだい

令和 8 年 9 月 1 日
調布市立八雲台小学校
校長 石川 淳
<https://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/>



努 力

校長 石川 淳

市内の味の素スタジアムをホームグラウンドとするサッカーの J1 チーム、FC 東京に長友佑都選手が在籍しています。FC 東京でプロデビューし、イタリア・トルコ・フランスの各クラブチームで活躍し、FC 東京に復帰して現在も契約を更新し続けている日本サッカー界の偉人といえる選手です。先日のワールドカップでも日本代表に選出され、アジア人史上初めての 5 大会連続出場を達成したほか、自身が持っていた W 杯出場の日本人最年長記録を更新しました。W 杯では 5 回以上出場経験のある選手にのみ着用在籍が許されるレガシーパッチが導入されたそうで、長友選手は今大会で対象となった 5 人のうちの 1 人でした。そんな長友選手は、気さくでポジティブなコメントが数あることでも知られています。「マンマミーア」や「ブラボー」など話題になりましたが、自身がアスリートとしてプレーし続ける上での心構えも多く語っています。本校の教育活動にも通じる言葉から考えてみます。

☆「夢や目標を叶えることが、必ずしも成功ではない。大切なのは叶えるために日々、努力すること。」

☆「努力は無駄にならないし、努力は裏切らない。」

長友選手は上背があるわけではなく、ポジションも攻守に参加し幅広い技術とスタミナが要求されるサイドバックが主戦場という中で、20 年以上も第一線でプレーし続けています。その彼が「努力」と口にするのですから超人的なものを自身に課しているのだろうと想像してしまいます。

☆「本気でぶつかなければ、課題はわからない。」

それって意味あるの？というフレーズを聞くことがありますが、自分で行動する前に成果を誰かに保証してもらいたい心の裏返しなのかなと思います。そもそも自ら描いたゴールではないのかも知れません。

☆「自分の弱さを認める。あとは、自分で追い込む努力をすればいい。」

私は、長友選手の言う努力とは、自らが描いたゴールに向かって自ら起こす行動のすべてととらえています。技術の向上や戦術の理解は言うに及ばず、けがの予防や体調管理、気持ちの切り替えやチームメートとのコミュニケーションなども含めたすべての行動を、描いたゴールに達するための「努力」と表現しているのだと思います。それによってチームや彼自身を鼓舞し、やらない言い訳を探してしまう心を追い払う。八雲台小の子供たちも、ゴールが描けてきたならば、今度はゴールに達するための「努力」を起こしてほしいと思っています。

～地域連携の紹介～

「地域住民納涼まつり 7月24日(金)、25日(土)」

地域住民納涼まつりが7月に開催されました。
開放委員会をはじめ、地域の諸団体が中心となり、大盛況の開催となりました。子どもたちもたくさん参加し、夏の良い思い出となりました。

